

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 群馬県 】

1 実践テーマ	【 I III V 】
2 実施対象者	群馬県立盲学校 中学部、高等部普通科、スポーツ部 20名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育) ② 行事名 (学校間交流) ③ その他 (部活動) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年開催の、東京オリンピック・パラリンピックへの機運を高める。 ・パラリンピックスポーツを通じた他校との交流の中で、お互いの理解と、尊重し合える心の成長につなげる。 ・パラリンピックスポーツの啓発。
5 取組内容	<p>○オリンピック・パラリンピック教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学部、高等部普通科における、保健体育の授業で、オリンピックとパラリンピックの種目の違いや数、オリンピックの原点、パラリンピックの原点、オリンピックやパラリンピックのエピソードなどについて、学習した。 ・2020東京オリンピックの、コンセプト、マスコット、会場、現在の進捗状況などを学習し、自分たちなりのオリンピック・パラリンピックへの関わり方を考えた。 <p>○一般校との学校交流時にゴールボール体験を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学部、高等部普通科で実施した学校間交流において、パラリンピックやゴールボール説明、体験を行った。



○高校体育科の生徒19名と、ゴールボール、ブラインドサッカーを通じた交流を実施した。

・放課後の部活動の時間に、高校生19名が来校し、本校スポーツ部9名と一緒に、上記の2つのパラリンピックスポーツを体験、交流を行った。





○群馬県特別支援学校体育連盟の実技研修会において、ゴールボール体験を実施

・8月の特体研実技研修会において、ゴールボール体験を実施した。県内特別支援学校に勤務する、保健体育科教員を中心に41名が参加した。実際に体験して、パラリンピックスポーツをもっと体験してみたい、見えないということを体験でき、逆に視覚を活用した指導の重要性を改めて実感した、など様々な感想を得ることができた。



6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・東京オリンピック・パラリンピックへの興味・関心・知識などを深めることができた。 ・スポーツを通じて、他校生徒との交流が広がる機会、経験の幅を広げる機会、視野を広げるよい機会となった。 ・パラリンピックスポーツ（視覚障害者スポーツ）の啓発をすることができた。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールボールは競技の特性上、痛みを伴うため、流れや試合の展開を主に考え、けがをしないように速いボールは投げないように促した。 ・交流においては、スポーツの特性を楽しめるように、できる限り実技を多く取り入れて実施した。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害者スポーツは競技の特性上、多人数で同時に行うことが難しいため、1人1人の体験の時間が短くなってしまう。 ・今年度は中学部と高等部普通科を中心にオリパラ教育を行った。今後は、小学部や高等部専攻科においても、実態に応じて実施できるようにする。
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに内容を広げた、オリンピック・パラリンピック教育。 ・中学部、高等部普通科で、学校間交流内においてスポーツ交流。